

## 意見交換会実施報告書

令和7年9月3日

赤穂市議会議長 様

委員会委員長 南條 千鶴子

委員会は、下記により意見交換会を実施したので報告する。

### 記

開催日時	令和7年8月22日（金） 14時 ～ 15時30分
開催場所	赤穂市役所6階 大会議室
意見交換会テーマ	赤穂市の農業における後継者問題等の課題について
出席委員	代表者：南條 千鶴子 瓢 敏雄 司会者：井田 佐登司 木下 秀臣 記録者：松崎 昭彦
相手方団体名 及び参加者数	赤穂市農業委員 6名 赤穂市農地利用最適化推進委員 4名
主な意見等	<p>1 概要</p> <p>赤穂市の農業における後継者問題等の状況について情報収集し、課題や行政に対する意見や要望について伺う。</p> <p>(1) 赤穂市の農業の現状</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・千種川の豊かな水を利用した水稻主体の土地利用型農業が中心</li><li>・温暖な気候と、塩屋地域の開墾された農地を利用したミカン等の栽培</li><li>・その他小規模農家、野菜農家が所在</li><li>・近年、イチゴや新規就農者による桃・ブドウの栽培</li></ul> <p>(2) 課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・農業収入単独では生活の維持が困難</li><li>・現状1人当たりの作付面積で10ヘクタール程度が限界で所得として低いレベルにある。</li><li>・稲作には高額投資が必要で新規就農を困難にしており、家族経営の継承もされにくい。</li><li>・稲作経営が成り立つ米価の維持・継続</li></ul>

- ・将来的に複合経営、家族経営から法人経営への転換を検討する必要がある。
- ・圃場面積の拡大、区画・水路整備などの基盤整備
- ・食料安全保障の面から、国含めた適正な農業経営補助金の支援拡充が必要
- ・新規販売ルートの開拓が現状難しい。

## 2 意見・要望

- ・赤穂市の農業に関して避けては通れない重要な課題だ。稲作だけでは生活は成り立たない。生産者不足や高齢化、耕作放棄地の問題がある。未来の赤穂を考えて、10年後を見据えた農業が必要で、スマート農業技術の導入など新規就労者確保の新たな可能性も見出だしつつある。赤穂の農業の現状と現場の声を率直にお伝えして今後の施策に活用してほしい。
- ・稲作を大規模にするには新規開拓が必要だが農地バンクなど何らかの援助をお願いしたい。
- ・中山間地の農地は維持管理が困難である。
- ・赤穂市内には大きな企業はあるが、農業はあまり知られていないと感じる。
- ・設備・資機材等の値上がりが深刻で、人件費も上がっている。今後経営が続けていけるか不安である。
- ・新田地区は千種川からの水が頼りのため、水不足が不安だ。息子が仕事の合間に手伝いをしてくれており、その息子が定年を迎えるまでは頑張る。トラクターなどの農機具が好きだが、農機具の更新には莫大な費用がかかるため儲からない。県や国の補助金もハードルが高く使えなかった。
- ・赤穂市として大規模な支援が欲しい。
- ・赤穂市として農業に対しての方向性が見えない。
- ・獣害の損害が非常に大きい。野生動物の餌を作っているようなものだ。
- ・何をもって後継者なのか、兼業農家が身内で農地を維持管理するのか、法人化など農業形態を変えていくのか、赤穂市はどう進めたいのかが分からない。
- ・息子が農業をやりたいと言って専門の大学に行っている。息子には農業の魅力が伝わるような姿を見せている。
- ・営農組合だけでは上手くいかず法人化した。後継者はいないし、できない。農業だけではなく地元で働けるような施策を

考えてほしい。スマート農業は未知数であり、まず今いる人間でなんとかやるしかない。どうやって若い世代に渡すのかだ。

- ・今まで農業の議論が無かったのでありがたいことだ。
- ・借りている土地が10年後くらいに農地として利用できればいいが、現在は後継者まで考えている余裕はない。
- ・基盤整備・インフラ整備をしっかりとやったうえで、それから後継者だと思う。獣害対策を盛り込んでほしい。
- ・子供2人が後継者となる予定。3Kのイメージを払拭させるため、設備投資や年間休日数の充実、有給休暇やボーナスなど一般企業に負けない労働環境を作っている。農業は魅力がある。やる気のある若者は採用しており、給料面でも続けてくれる。赤穂市が大規模化の整備を進めることが必要だ。
- ・子供に後を継いでほしいが、今のままで渡すのはかわいそうに思う。

### 3 農家のやりがい・魅力

- ・イチゴ農家は赤穂では2軒だけなので競合相手も少なく魅力もある。シーズンオフは休みも多い。昔は作業が負担であったが今は腰を曲げることなく、土も無くきれいで自動化されている。また、赤穂みかんも魅力だが、作業が大変なため廃業してしまう可能性がある。このままでは後継者がいなくなって廃れてしまう。作業をしやすくするために道路整備の必要がある。
- ・今のままでは魅力はない。
- ・納品先からの感謝のことばが嬉しい。個人経営なので気楽にできる。
- ・作った米をおいしいと言っていたときにやりがいを感じる。
- ・お客様からおいしいと言っていたとき、また代表者なので自分が思うようにできるため楽しくやれる魅力がある。
- ・起業して7年目で、商品の需要があると分かっている。伸びしろしかないためやりがいのある仕事だ。
- ・専業農家で夫婦2人だけで低米価のなかここまでやってこれたこと、子育てを終えられたことにやりがいがあった。
- ・機械を触るのが好きだが、農業の魅力はと言われると今は難しい。今後、魅力付けをしていかなければならない。

<p>委員会のコメント</p>	<p>人口減少の中で、赤穂市の方角性を示すことが必要と考える。  農家や従事者の意見をしっかりと聞くことが大切だ。  赤穂市を豊かにする原動力のために商工費、農林水産業費が今後の赤穂市の農業を左右すると考える。  若者が興味を持ってもらうために、農業従事者がアピールし発信する場を設けることが必要と考える。  赤穂市としての施策や補助金が必要ではないか。  第一次産業だけではなく第二次、第三次産業を含めることで利益が出ると考える。これが目指す農業だ。  鳥獣害対策が喫緊の課題だ。</p>
-----------------	---